

厚岸湾におけるオホーツクホンヤドカリに生息するヨコエビ3種の生態に関する種間比較

北海道大学大学院水産科学院

高尾航平

【はじめに】

ヤドカリは貝殻を背負って暮らすエビ・カニの仲間ですが、背負っている貝殻に注目してみると、ヤドカリ以外にいろいろな生き物が暮らしています。厚岸湾に生息するオホーツクホンヤドカリにもいろいろな生物が共生しており、その中で私が注目したのはヨコエビという甲殻類の仲間です。ヨコエビは陸から海まで様々な場所に生息しており、オホーツクホンヤドカリにもいろいろなヨコエビが共生しています。しかし、オホーツクホンヤドカリと共生するヨコエビがどのような生態を持つかは分かっていません。そこで、わたしはオホーツクホンヤドカリと共生するヨコエビの内、*Sympleustes japonicus*、*Metopeloides paguri*、*Melitidae gen. sp.* の生態を調べました。



S. japonicus



M. paguri



Melitidae gen. sp.

【方法】

調査は2-8月にかけて毎月実施しました。ヤドカリは厚岸湾にカニカゴを入れ、カゴに入ったヤドカリを採集しました。採取したヤドカリを実験室に持ち帰り、固定式の万力を使って貝殻を割り、ヨコエビを採取しました。この時、ヨコエビがどこにいたかも記録しました。採取したヨコエビは顕微鏡で観察し、体長と第2咬脚長（繁殖に重要な部位）、性別などを記録しました。

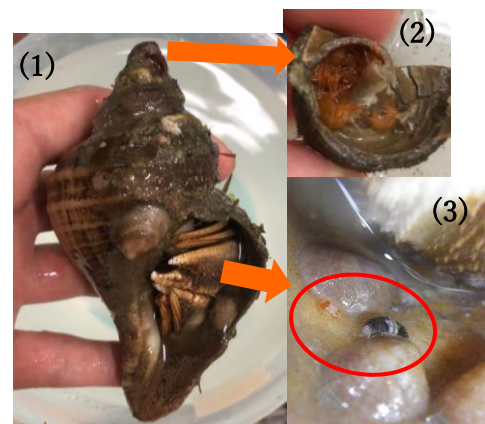
【結果と考察】

3種とも春に卵を抱え、5、6月頃から子どもが生まれる同じ繁殖スケジュールでした。

しかし、同じ貝殻の中でも暮らす場所が違っていました。*Melitidae gen. sp.*は貝殻の頂上で暮らしており、*S. japonicus* と *M. paguri* は貝の殻口付近やヤドカリの体にくっついて生活していました。

また、*Melitidae gen. sp.*は貝殻の中で夫婦をつくり、生まれた子どもと一緒に暮らす様子が見られました。

体長と第2咬脚長の性差は *S. japonicus* と *M. paguri* でしたが、*Melitidae gen. sp.*ではありませんでした。しかし、なぜ性差があるのかについてはまだ不明です。まだまだこのヨコエビの生態は不明な点が多いため、より詳しく調べる必要があります。



(1)オホーツクホンヤドカリ(2) *Melitidae gen. sp.*(3)左から *M. paguri*、*S. japonicus*